

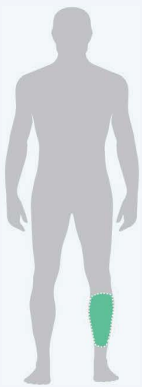
下肢の全層熱傷への自家網状植皮とRECELL[®]併用により、良好な整容性 が得られた

CASE STUDY / Jeffrey Carter, MD/ University Medical Center, New Orleans, LA

患者の状態

火炎による17% TBSAの混合深度熱傷を受傷した34歳男性。本症例では、右下腿の全層熱傷創に対するSpray-On Skin[™]Cellsと2:1網状分層植皮(STSG)併用によるRECELL治療に注目する。

RECELL治療部位



結語

本症例では、自家網状植皮の上からSpray-On Skin[™]Cellsを使用したRECELL治療で全層熱傷の治療が成功し、術後7日目には完全再上皮化が得られたことが示された。また、重要な事であるが、11週間の観察期間中に、患者からは疼痛管理について、「Excellent」との報告をしている。



(A) 自家植皮後

(B) 術後1週

(C) 術後2週



(D) 術後4週

(E) 術後8週

治療法

この患者の治療は、前向き観察試験の一環として実施された。熱傷創のデブリードマンを実施した後、2:1網状STSGを下腿に移植した(図A)。RECELLシステムで作成したSpray-On Skin[™]Cellsを移植した網状植皮片の上から適用。治療部位の被覆には、Telfa[™]Clear、その上からXeroform[™]及び厚みのあるドレッシング材を使用した。

臨床的アウトカム

RECELL治療から7日後には創部の完全再上皮化が得られた(図B)。患者は熱傷創治療部位の1~10のポイント(1=疼痛無し、10=非常に痛い)での疼痛評価を行った。回診の段階で何時疼痛について尋ねても、そのスコアは1または2であった。その後11週間以内に創部の更なる改善が見られた。術後11週後に、患者と観察者による癒痕評価をPOSASを用いて行ったところ、1「通常の皮膚と同等」という評価であった。

本紙に掲載している症例は、臨床成績の一部を紹介したものです。全ての症例で同様の効果を保証するものではありません。

製造販売元



RECELL専用サイト



製造元

